

## 第22回・令和元年度 全視連功労者 功績概要

氏名・通算経歴年		功績概要
1	岩手県 <b>坂本 アキ子</b> さかもと あきこ	平成17年4月、盛岡教育事務所管内教育振興協議会に着任、以来現在まで14年間勤務している。中央地域視聴覚ライブラリーの担当となり、同事務所管内の8市町の公民館や児童館等を対象にDVDや16ミリの貸し出し、返却後のフィルムのチェックや修理を行う。同21年からは「16ミリ映写機操作技術講習会」を企画・運営するとともに、自ら実技指導も行い、16ミリの地域における操作技術者養成にも力を注いできた。同29年からは一般県民を対象に、平泉に関する貴重な16ミリの映像についての説明や上映会を実施している。以上、同人の活動実績は、地域の視聴覚教育の振興に大きな功績があると認められる。
2	山形県 <b>後藤 弘実</b> ごとう ひろみ	平成3年、遊佐図書館読み聞かせボランティア「たんぼぼ会」に参加し現在まで27年間継続している。同5年、歌と読み聞かせのグループ「ハートカンパニー」、同6年、蕨岡小学校読み聞かせボランティア「ひだまりの会」、同10年、酒田市立図書館朗読ボランティア「秋桜の会」に参加、同17年からは自ら紙芝居を制作する団体「みわの会」を設立し、今日に至る。視聴覚教材の自作コンクールでの入賞も多数ある。また、小学校での読み聞かせや高校での紙芝居制作の指導も行うなど、紙芝居の面白さを若い世代に伝えている。これらの活動を通して、視聴覚教育の発展、そして地域の活性化に大きく貢献している。
3	栃木県 <b>早川 陵子</b> はやかわ りょうこ	平成19年、下都賀地区視聴覚ライブラリー協議会臨時職員となる。唯一の専任職員として、栃木市栃木図書館において、所蔵視聴覚資料の管理・貸出、広報及び上映会の開催等を現在まで12年間にわたり担っている。同図書館における映画会の開催や子ども会及び地域イベントで催される上映会のサポートだけでなく、自らも講師を務める16ミリフィルム映写機技術講習会については、幼稚園、保育所職員への参加も働きかけ、啓発に努めるなど、地域の視聴覚教育現場に欠かせない人材である。以上のとおり、同人の活動は、視聴覚教育の現場担当者として他の範となるものである。
4	埼玉県 <b>宮城 英和</b> みやぎ ひでかず	昭和55年、県公立小学校教諭として採用、その後17年間、各勤務校にて視聴覚主任として教材開発や教育機器を活用した学習指導の実践や、PTA・地域の方々を対象とした学校開放講座（パソコン基礎）の運営・指導を行った。また、視聴覚ライブラリー運営審議委員として公民館や図書館などの社会教育施設等の教育機器（16ミリ映写機やTV放送等）を活用した学習活動の充実を図り、一般市民向けの学習活動の環境整備に尽力した。さらに、県民活動総合センターでは県民向けに教育メディアを活用した事業「パソコン講座」の開設に尽力するとともに指導者も務めるなど、地域及び県の視聴覚教育の普及に大きく貢献した。
5	新潟県 <b>小林 民弥</b> こばやし たみや	昭和50年、公立小学校教諭として就任以来、平成25年に小学校長として定年退職を迎えるまでの38年間、視聴覚機器を活用した理科教育実践に熱心に取り組む、その成果を全国規模の研究大会で発表した。また、同61年から3年間、十日町市教育委員会事務局職員・視聴覚教育主事を命じられ、十日町市視聴覚ライブラリー主任を務め、視聴覚教材の整備、ビデオ作品の作成やコンピュータ研修会等の講師を担当。管理職となつてからも新潟県立生涯学習推進センター副参事や新潟県教育庁中越教育事務所社会教育課長などを歴任するなど、様々な立場で後進の育成に力を注ぎ、地域の社会教育の充実・発展に多大なる貢献をした。
6	岐阜県 <b>岩見 三七夫</b> いわみ みなお	昭和48年から平成16年まで美濃市役所職員として勤務。市役所に勤務する傍ら、平成5年、美濃市視聴覚協議会に入会、同26年、同協議会会長に就任し、現在まで26年間にわたり視聴覚ボランティア活動を行っている。行政関係の祭礼の他、学校行事などのビデオ撮影や社会福祉協議会からの要請による映画上映などを行っている。同28年からは岐阜県社会教育視聴覚連絡協議会常任理事に就任、同29年には同協議会役員に就任。岐阜県社会教育視聴覚連絡協議会表彰や岐阜県知事表彰（視聴覚教育功労者表彰）を受けるなど、地域及び県の視聴覚教育の普及に大きく貢献した。
7	愛知県 <b>島田 繁直</b> しまだ しげなお	昭和57年から現在まで公立小学校や岡崎市教育委員会に勤務し、現在は小学校勤務。この間、岡崎市のみならず西三河地区及び愛知県内の視聴覚・情報教育を先導し、その発展に貢献してきた。平成3年より同29年まで、社会科分野の自作視聴覚教材の制作を数多く手掛け、全国自作視聴覚教材コンクールにおいて、同人が手掛けた教材3作品が入賞した。また、同9年より21年までの12年間にわたり岡崎市視聴覚ライブラリー運営協力員として、16ミリ映写機操作実技講習会、VTR講習会の講師を務めるなど、岡崎市や県内の社会教育・学校教育の両面において視聴覚教育の普及・発展に大きく貢献した。

8	兵庫 県	<b>小林 康弘</b> <small>こばやし やすひろ</small>	<p>昭和63年に西紀・丹南町教育委員会（現丹波篠山市教育委員会）に就職。以降、通算18年にわたり視聴覚ライブラリーに勤務。その間、自主制作映像を活用した地域づくりの推進や、映像ボランティアサークルの育成を行う。また、制作した地域動画情報の、全自治会へのビデオテープによる配布や、地域映像のネット配信、イベントのネットライブ配信を行った。全国のアマチュア映像ビデオコンテストの開催は、映像制作を生涯学習社会の新しい学習手段として定着させると共に地域間交流の役割を果たすなど、常に次の時代を予測し、一歩前を見据えて視聴覚教育を推進しており、他の範となるものと考えられる。</p>
9	鹿児 島県	<b>出水澤 孝洋</b> <small>いずみざわ たかひろ</small>	<p>昭和57年、公立小学校勤務後、教育委員会、中学校教頭・校長を経て退職、現在は公民館長。教諭として先進的に視聴覚機器の活用を進める一方、視聴覚教材を積極的に活用し、学校や地域の視聴覚教育の普及に努めた。この間、視聴覚ライブラリー選定委員や視聴覚研修講師、IT活用講座講師などを務めた。さらに、社会教育主事の資格を有し、青少年教育や成人教育講座等の講師を務め、広く県民の視聴覚機器利用普及に貢献した。現在も、先進的なメディア研修に参加し、プログラミング教育を取り入れた講座開設を視野に入れ準備を進めているなど、長年にわたる地道な視聴覚教育の普及活動は他の範となるものである。</p>
10	北九 州市	<b>平田 勝治</b> <small>ひらた かつじ</small>	<p>平成7年、16ミリ映写機操作技術講習会を受講し、同時に「北九州市AVEの会」に入会。同18年に理事に、同30年に同会八幡西区会副会長に就任し、入会以来24年間、映写ボランティア活動を行い現在に至る。毎月、学童保育クラブや老人施設、保育園などを訪問し、16ミリ映写会を開催している。その活動は、今年24年目を迎え、78歳になる現在でも、各施設の訪問は継続して行っている。常に同会活動の先頭に立ち、永年にわたり、多くの子どもや年長者に夢と希望を提供する姿は「映画のおじちゃん」として親しまれるなど、視聴覚教育の推進や青少年の健全育成に果たした役割は大きい。</p>